

令和5年度  
興南高等学校  
入学試験問題

後期

国語

令和5年3月18日（土）実施 50分／100点満点

受験上の注意

1. 試験開始の合図があるまで、この問題用紙は開かないようにして下さい。  
解答用紙は別になっています。
2. 問題は【一】～【三】まで3題あります。
3. 試験時間は50分です。
4. 解答は解答用紙の所定のところに記入して下さい。
5. 解答は楷書で丁寧に記入して下さい。
6. 解答用紙には、受験番号、中学校名、氏名を必ず記入して下さい。
7. 試験終了後、問題用紙は持ち帰って下さい。





【一】 次の文章を読み、後の各問いに答えよ。答えは解答用紙に楷書で丁寧に記入すること。なお、指示された表記方法以外で解答した場合は採点されないため注意せよ。

① 言葉は時にいくつもの意味を持っていることがあります。実際、「イヌ」という言葉を1つとってみても、「イヌ科の動物」「パシリ」「スパイ」「役立たず」など、実に多種多様な意味合いを含んでいるのです。もし言葉の意味がこのように1つに定まらないのであれば、言葉の集まりである文学の読み方もいくつも存在するのではないのでしょうか？ そう考えたのが、フランスの思想家ジャック・デリダでした。「文学作品の読み方は決して1つには集約できない」——そうデリダは考え、文学作品に隠された新たな意味をつかみ出そうとしました。デリダが行った文学批評の手法は、今日「脱構築」と呼ばれています。脱構築の手法は、文学のリョウウイキ<sup>b</sup>だけにトドまることはありませんでした。実際、脱構築から大きな影響を受けた思想家の中には、やがてこの手法をヒンコン<sup>a</sup>、性差別、人種問題などのさまざまな社会問題に適用し、ナマの現実社会に深く関わっていこうとする活動家が多く登場することになります。

② しかし、そもそも「脱構築」とはどういう意味でしょうか？ 例えば、似たような言葉で、最近よく聞かれるものに、「脱原発」というのがあります。これはその名の通り、「原子力発電(原発)」「依存の社会から「脱け出す」ことを意味しています。そうであれば、「脱構築」という言葉も、同じように「構築」というものから「脱け出す」という意味があることが分かるでしょう。もし、脱原発について考えるならば、まずは「原発」とは何かについて知らなければなりません。同様に、脱構築を理解するためには、「構築」という言葉について知る必要があります。ちよつと遠回りですが、まずはこの「構築」とは何かについて考えてみましょう。<sup>①</sup>

③ 「構築」とは何でしょうか？この言葉を語る上で欠かせないのは、フランスの天才文化人類学者クロード・レヴィ・ストロースです。この人のすごいところは(天才はみんなそうなのですが)、それまでみんなから当たり前だと思われていたことをそのまま受け

入れず、あえて疑ってかかったことです。レヴィストロースが疑問に思ったのは、「なぜ世界にはさまざまな変わった文化があるのか？」という、ごくごく当たり前のことでした。

④とりわけ彼が注目したのは、結婚に関する様々なローカルルールです。例えば、中国や韓国ではイトコ同士の結婚は法律で禁じられています。一方、日本ではイトコ同士の結婚は問題ありません。さらに、イトコ同士の結婚と言っても、もつと複雑なルールがある国もあります。例えばインドネシアのある民族は、母方のイトコとの結婚はOKですが、父方のイトコとの結婚はNGです。ではなぜ父親の方だけダメなのか、彼らに聞いても「それが先祖代々のルールだから」としか答えてくれません。なぜ文化の違いによってこんなにも複雑なルールが存在するのでしょうか？レヴィストロースはこの点に疑問を持ちました。しかも、遠くブラジルまで行って実地調査をしたくらいですから、いかに研究熱心であったかが分かります。

⑤さて、長年の調査の結果彼が見出したのは「どの文化のルールも、きわめて論理的なシステムに基づいている」という結論でした。例えばオーストラリアの北部に住んでいるカリエラ族という先住民には、独特の結婚ルールがあります。彼らは生まれてきた子供をA、B、C、Dの4つのグループに分け、グループAの子供はグループCの子供とだけ結婚させ、グループBの子供はグループDの子供としか結婚させません。この一見意味不明なルールにも、レヴィストロースは論理的システムが存在していると考えました。そして調べてみると、なんとこの民族の結婚ルールは、ドイツの数学者フェリックス・クラインが発見した「クラインの四元群」という、極めてハイレベルな<sup>d</sup>チュウシヨウ<sup>\*1</sup>代数学を使っていることが分かったのです。この発見は彼の名著『親族の基本構造』にて詳しくまとめられています。

⑥オーストラリアの先住民が高度な数学システムを使っているという発見は、当時の西洋人にとって、<sup>④</sup>とても衝撃的なニュースでした。それまで、西洋人たちはアジアやアフリカの人たちの文化を野蛮で意味不明なものとなしていました。<sup>A</sup>とりわけ、電気や水

道もなく、未だに原始時代の暮らしをしているオーストラリアの先住民たちの生活は、彼らにとつてはレベルの低い劣った文明だったのです。しかも、こうした見方は単に素人の偏見に過ぎなかったわけではありません。例えば、人類学者のルイス・ヘンリー・モーガンが『古代社会』において、人類の発展を「野蛮」「未開」「文明」という明確な階層に分けていたように、当時の知識人の間でも「社会は野蛮なレベルから徐々に文明的なものへと進化していく」という考えが定着していました。それゆえ、先住民が行うさまざまな風習は、すべて非科学的な迷信だと思われていたのです。

7 レヴィストロースが明らかにした事実は、西洋人たちに驚きを持って迎えられました。なにしろ西洋人たちが知力を尽くしてやっつと発見した数学理論を、動物を狩ることしか知らないはずのカリエラ族がすでに数百年前に見出していたのです。レヴィストロースの発見は、それまで白人たちの目には非論理的と見られていた複雑怪奇な文化や習慣にも、ちゃんとした論理的なシステムがあることを証明しました。今まで彼らが頑かたくなに信じこんでいた、「西洋の文化が一番優れている」という「迷信」がもろくも崩れ去ってしまったのです。

8 レヴィストロースはこの考えをさらに掘り下げました。「実はすべての文化には、共通した論理システムがあるのではないか？」と考えたのです。そこで彼は、世界各国の神話を集めて、分析してみることにしました。すると、Bいかなる神話の中にも、普遍的な「対立関係」が潜んでいることにレヴィストロースは気づきました。彼は、それら「対立関係のまとめり」を神話から抽出するこ\*2とで、深層に存在する法則を見出したのです。これは今日、「二項対立」もしくは「構造」という概念\*3で呼ばれています。二項対立とは、言語学者フェルディナン・ド・ソシュールが提唱した概念であり、対立する2つの要素のペアのことを指します。レヴィストロースは、この世界は様々な対立する2つの要素がからみあったシステムであると考えました。例えば、人間は「男と女」という2つの要素で成り立っています。また、1日は「昼と夜」という二項対立で分けられ、物質を構成する原子は、「陽子」というプラス

の粒子と電子というマイナスの粒子」から成り立っています。他にも、

善／悪、光／闇、肉体／精神、生／死、社会／個人、大人／子供、理性／感性、新／旧、文明／自然、白／黒、現実／夢、意識／無意識、明／暗、原因／結果、上／下、始め／終わり、オリジナル／コピー…

など、二項対立のパターンは無数にあります。これがいわゆる脱構築における「構築」の部分です。構築とはすなわち、社会を構成する様々な二項対立のネットワークなのです。20世紀の批評家の中には、この二項対立を文学批評に応用し、作品の中から二項対立の要素を見出そうと試みたグループが現れました。彼らが好んだこの手法は、「構築主義」と呼ばれています(構築とは構築の同義語です)。二項対立を重視する構造主義者は、いかなる文学作品にも、普遍的な二項対立が潜在していると指摘しました。<sup>⑤</sup>『桃太郎』を例にとつて彼らの分析方法を見てみましょう。

⑨まず、川上から桃がドンブラコ、ドンブラコと川下に流れてくるということは、二項対立で言う「上／下」のカテゴリーです。こう考えれば、桃は「上なるもの」が「下なるもの」に渡したプレゼントであり、両者をつなぐかけ橋だと考えることができます。桃から生まれた桃太郎は「子供」ですから、おじいさんとおばあさんは「大人」のカテゴリーに入り、「大人／子供」という二項対立がここでも見出せます。「大人」を代表するおじいさんとおばあさんは鬼退治のために「子供」である桃太郎にキビダンゴを与えます。キビダンゴはここで、「大人」と「子供」の親愛関係を表していると言えるでしょう。また、鬼ヶ島に向かう途中、桃太郎はイヌ、キジ、サルに出会い、キビダンゴを与える代わりに彼らを家来にします。桃太郎と動物たちの関係は、「人類／自然」という二項対立で表すことができるでしょう。ここでもキビダンゴは「人類」と「自然」を結ぶ役割を果たしているとみなすことができそうです。桃太郎は鬼を退治しますが、彼らを根絶やしにすることはしないで、宝物を持ち帰ることで鬼と和解します。言い換えれば、鬼という「悪」の暴走を「善」である桃太郎が押し戻し、「善／悪」のバランスを回復させたと考えることができません。

(語注)

\*1 代数学 数の代りに文字を記号として用い、数の性質や関係を研究する数学。

\*2 普遍 すべてのものに共通してあてはまること。

\*3 概念 普遍性を持った物事の意味内容や本質。

\*4 批評家 物事の善悪・是非などについて評価し論ずる人。

問一 二重傍線部 a $\sim$ d のカタカナを漢字に改めよ。

a 文学のリヨウイキ      b トドまる      c ヒンコン、性差別、人種問題      d チュウショウ代数学

問二 波線部 A「とりわけ」、B「いかなる」の意味として最も適当なものを次のア $\sim$ エからそれぞれ選び、記号で答えよ。

A とりわけ      ア 一方で      イ 特別に      ウ いつまでも      エ ところで

B いかなる      ア どのような      イ 数多くの      ウ 一部の      エ 限られた

問三 傍線部①「まずはこの『構築』とは何かについて考えてみましょう」とあるが、なぜ筆者は「構築」について考えようとしているのか。その説明として最も適当なものを次のア $\sim$ エから選び、記号で答えよ。

ア デリダや他の思想家の考えを理解するためには、「脱構築」だけでなく「構築」についても理解する必要があるため。

イ 「脱構築」も「脱原発」も同様に下に来る語を「脱」する意味を持つので、それらの紛らわしい意味を区別するため。

ウ 「脱構築」を説明するにはまずレヴィ・ストロースの考えを説明しなければならず、その話題の入口を用意するため。

エ 「脱構築」は「構築」を脱することを意味するので、「脱構築」を理解するには「構築」の理解が不可欠であるため。

問四 傍線部②『構築』とは何でしょうか」とあるが、本文全体の主旨を踏まえた「構築」の説明として最も適当なものを次のア



くエから選び、記号で答えよ。

ア 西洋社会のみならず未開社会にも共通する結婚に関連した論理的なシステム。

イ 「文明／野蛮」や「男／女」などの相対する要素から世界が成り立っているという事実。

ウ 「昼／夜」や「文明／自然」などのような社会を形作る二項対立のネットワーク。

エ いかなる文学作品にも普遍的な二項対立が潜んでいると考える思想家たちの主張。

問五 傍線部③「とりわけ彼が注目したのは、結婚に関する様々なローカルルール」とあるが、本文の内容と合致するものとして最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えよ。

ア レヴィーストロースは文化によって結婚に関するルールが異なることに疑問を持ち、その研究の結果によって当時の西洋人たちを驚かせた。

イ アジアの多くの国々ではイトコ同士の結婚は禁じられているが、インドネシアだけは唯一、母方のイトコであれば結婚を認めている。

ウ レヴィーストロースは未開社会の文化に高度な数学システムが使われていることを発見し、当初からの目的であった未開社会のイメージ回復を果たした。

エ レヴィーストロースは「社会は野蛮から文明へと進化してゆく」という当時の定説を打ち破り、西洋社会が最も優れているという考えを強く批判した。

問六 傍線部④「とても衝撃的なニュースでした」とあるが、それはなぜか。その説明として最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えよ。

ア アジアやアフリカの文化や習慣は劣っているという学術的に根拠のない偏見が一般に存在したが、レヴィーストローヌによって西洋以上に進歩している側面が明らかになったから。

イ アジアやアフリカの文化や習慣は複雑怪奇で理解できないものと一般的に思われていたが、オーストラリアの先住民の神話の中にも西洋の神話と同様の対立構造が存在していたから。

ウ アジアやアフリカの文化や習慣は非論理的なものとして一般的に考えられていたが、オーストラリアの先住民の結婚のルールにハイレベルな数学システムが用いられていたから。

エ アジアやアフリカの文化や習慣は野蛮で意味不明なものというのが一般的な考えだったが、オーストラリアの先住民の様々な習慣には代数学の理論が使われていたから。

問七 傍線部⑤『桃太郎』を例にとつて」とあるが、本文の記述を参照しながら次の表の空欄部を補い、表を完成させよ。なお、空欄部A～Dに当てはまる言葉は本文中からそのまま抜き出して用いること。

表 桃太郎における二項対立		
川の下流	川の上流	上／下
桃太郎	B	大人／子供
イヌ・キジ・サル	C	A
D	桃太郎	善／悪

問八 本文の内容や展開の説明として最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えよ。

ア 形式段落⑧・⑨では、形式段落②・③で問いかけた「脱構築」や「構築」についてレヴィストロースの研究を参照しながら具体的に定義し、その社会的意義について解説している。

イ 形式段落⑨では、文学作品に限らないあらゆる学問リョウイキにおいて構造主義者が用いる共通の分析手法の例として『桃太郎』を題材にとって具体例が提示されている。

ウ 形式段落④から⑧では、レヴィストロースが当時の西洋社会に与えた衝撃が説明され、それをきっかけにアジアの文化がいかに見直されることになったかが説明されている。

エ 形式段落⑧では、すべての文化には共通の「二項対立」という論理的システムがあるというレヴィストロースによる発見について述べられた後、それをもとに脱構築の説明が展開されている。

【二】 次の塚本邦雄の短歌と【資料Ⅰ】・【資料Ⅱ】を読み、後の問いに答えよ。また、答えは解答用紙に楷書で丁寧に記入すること。なお、指示された表記方法以外で解答した場合は採点されないため注意せよ。

馬を洗はば馬のたましひ<sup>さ</sup>返ゆるまで人恋はば人あやむるころ　　塚本邦雄『感幻樂』

### 【資料Ⅰ】

馬を洗うのならその魂が澄みわたるまで、人を恋うのならその人を殺めたいと思うほど徹底的に。それくらいの覚悟がなければ本物の恋とは言えないと、読む者の胸に刃を突きつけるような（A）です。やや狂気を孕<sup>はら</sup>んだ（B）ですが、（C）の美しい馬のイメージにより、品格をもって詠われています。「洗はば」「恋はば」という（D）と、そこから導き出される結果を（E）的に表現。また、定型のリズムに従って「人恋はば人／あやむるころ」と句切られるとき、二度目の「人」の後でひと呼吸置くこととなりますが、そこに断定の強さが生まれています。<sup>\*</sup>透徹した美意識に貫かれている歌です。『鑑賞 日本の名歌』短歌編集部・角川学芸出版・平成二十五年）

（語注） \*透徹 澄んで濁りのないこと

### 【資料Ⅱ】

詩のなかには、「生の実感」を読む人に想起させ、「ああ、いかにも『いのち』とはこういうことだなあ」というリアティーを感じさせるタイプのものが多い。

たとえば馬について書かれた詩だとすると、馬の体温や手触り、躍動する走りやこまかいしぐさ、目や耳の動きだとか、におい、

重量感、などなどの具体的な感覚描写をとおして、「この詩に書かれた馬は、いかにも馬である」と感じられるような詩だ（そして詩にしたしんでいない多くの人にとっては、そういう「自分がすでに知っている感覚の再現」をしてくれるものだけが「詩」なのかもしれない）。

そうした詩は、読む人がもっている「馬」体験やそのイメージに照らして、その詩の（馬にかんする）イメージ喚起力や再現力を味わう、という鑑賞方法で読む詩であって、読む人のなかにすでに存在する体験や感情をひっぱりだしてくれろという意味ではたいへんな力を発揮するけれども、そもそも馬を見たことのない人の①ころには響かない。

しかし、詩というもののなかには、こうした「実感の再現」とはまったく性質のちがうことばで書かれたものもある。そして、わたしがひかれたのはそちらがわの詩、つまり「実感の再現」などとはほとんど無関係の詩なのだった。

②たとえば、こんな短歌がある。

馬が出てくる。

しかしこの短歌は馬の具体的な馬らしさなどひとつも描いていない。そこに注目して読んでみてほしい。

馬を洗はば馬のたましひ互ゆるまで人恋はば人あやむるころ　塚本邦雄

馬を洗うというのは、たんに馬のからだをこすつたり流したりするというようなことではない、その馬のたましいが冴えるまでに洗うのである、といっている。

「冴える」というのは、ものの輪郭や色彩がことのほかあざやかにくつきりとすることである。または③俳句の季語として使われる場合のように、ひえびえと凍りつくようにきびしい寒さを表現することばでもある。

そして人を恋う感情というものは、その感情がほんものであるかぎり、相手を殺めるところまで行きつく情熱である。潔癖けっぺきという

か極端というか、いずれにせよあまいさを嫌う若いころのいらだちのようなものが鮮明に感じられて、秀歌だと思う。

この歌は馬を見たり触ったりした実感をいきいきと伝えるタイプの歌ではない。「生きている馬の実感」はここにはまったくなく、実際の馬を描写しているとはとても思えない。むしろこの短歌のなかの「馬」と「人」は、「馬一般」「人一般」という概念を言っていると考えたほうがよい。

この歌の作者である塚本邦雄は、小説家の三島由紀夫に「よくあんな歌が詠めますね」と褒められた体験を話しながら「私は馬に触ったことも近寄ったことも全然ありません」「見なくつても触らなくつても歌つてもものは詠める」と発言したそうだ。

歌人であると同時にすぐれた評論家でもある穂村弘は、この短歌<sup>④</sup>について「見て触ったように」詠めているとは思えず、むしろアフリズムを連想させると言う。つまり、馬という具体的な存在の実感を描写したものではない、ということだ。

《例えば「実感の表現」と云うとき、「実感」のもとになった現実世界における体験が、常にその表現に先立って存在していることになる。つまり「実感の表現」とは事実上の「再現」であって、表現の根拠を過去に置いている。

それに対して塚本的な「何か」は、自らの表現が未来と響き合うことを期待している、とでも云えばいいだろうか。ここで云う未来とは過去の反対語としてのそれではなく、現実を統べる直線的な時間の流れからの逸脱<sup>いっだつ</sup>そのものであるような幻の時である。》  
(穂村弘『短歌の友人』河出文庫より)

さきほどから述べてきた「読者のなかにすでにある体験や感情をひっぱりだしてくる力」は、ひとことでいえば「再現力」なのである。

【 渡邊十絲子『今を生きるための現代詩』講談社 ※問題作成の都合上一部改変 】

(語注) \*アフリズム 簡潔な表現で物事の本質を鋭く言い表したものを。「芸術は長く人生は短い」(ヒポクラテス) など。

問一 【資料Ⅰ】の（A）～（E）に該当する適切な語句について、次のア～ケから選びそれぞれ記号で答えよ。

- ア 一首    イ 一句    ウ 上の句    エ 下の句    オ 仮定条件    カ 確定条件    キ 対句  
ク 倒置    ケ 省略

問二 【資料Ⅱ】の傍線部①「ここには響かない」とあるが、それはなぜか。その説明として最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えよ。

ア 読者が自身の馬にまつわる体験やイメージと詩とを照らし合わせる鑑賞方法は、馬を見たことのない読者にとってはむしろ親しみにくく、このような詩を読むためには馬に対する専門的な知見が必要になってくるから。

イ いかにもな「馬らしさ」を読者に想起させる詩は、読者の中の馬にまつわる体験やイメージに関連して読まれるのであり、馬を見たことがない人は、そもそも馬にまつわる具体的な体験やイメージを持ちえないから。

ウ 馬にまつわる具体的な体験やイメージを持たない読者にとっては、「自分がすでに知っている感覚の再現」をしてくれるような詩はむしろ想像しにくいものであり、詩として認めたくないものとなってしまいうから。

エ 詩に対してそもそも親しみが無い人にとっては、「自分がすでに知っている感覚の再現」をしてくれないような詩は、詩として認めたくないものであり、そもそも詩として読もうとしてくれないから。

問三 【資料Ⅱ】の傍線部②「たとえば、こんな短歌がある」とあるが、筆者はこの短歌をどのような詩の例として挙げているか。その説明として最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えよ。

ア 俳句の季語としても使われる「冴える」という言葉が用いられた詩の例。

イ 「実感の再現」とは無関係で、馬に関する記述はいっさいなされない詩の例。

ウ あいまいさを嫌う若い頃のいらだちが鮮明に感じられる優れた詩の例。

エ 具体的な馬らしさは描かれておらず、「実感の再現」とは無関係な詩の例。

問四 【資料Ⅱ】の傍線部③「俳句の季語」とあるが、次の1～3の季語の季節をそれぞれ漢字で答えよ。

- 1 小春      2 蛙      3 月

問五 【資料Ⅱ】の傍線部④「この短歌」について、本文中の説明と合致し、同様の例として挙げることができる俳句を次のア～エから一つ選び、記号で答えよ。

ア をりとりてはらりとおもきすすきかな 飯田蛇笏      イ 赤い椿つばき白い椿と落ちにけり 河東碧梧桐

ウ 街燈がいでうは夜霧にぬれるためにある 渡辺白泉      エ 寒雷かんらいやびりりびりりと真夜の玻璃はり 加藤楸邨

\* 玻璃 ガラス窓

問六 【資料Ⅰ】・【資料Ⅱ】についての説明として最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えよ。

ア 【資料Ⅰ】は句切れや文法など塚本の短歌に書いてある要素を中心に鑑賞を行っており、【資料Ⅱ】は穂村弘の言葉を引用しながら塚本の短歌を「再現力」を有する詩とは違うものであると批評している。

イ 【資料Ⅰ】は塚本の短歌の具体的な情景に触れながら文法や表現技法について解説しており、【資料Ⅱ】は様々な詩の中で塚本の短歌を「実感の再現」を読者に体感させるタイプの詩であると批評している。

ウ 【資料Ⅰ】は他者の評を引用せず、また他の詩との比較検討なども行わず、主観的な観点を一切排して塚本の短歌に書かれている言葉の意味や効用のみに着目した鑑賞を展開している。

エ 【資料Ⅱ】は読者の過去の体験やイメージに触れて読者のすでに知っている感覚を想起させる詩の力を「再現力」と定義し、塚本の短歌を「再現力」のある詩の例として批評的に扱っている。



問七 次は塚本邦雄の短歌と【資料Ⅰ】・【資料Ⅱ】を読んだ生徒による議論の様子である。塚本邦雄の短歌と【資料Ⅰ】・【資料Ⅱ】の内容の理解として明らかに誤っている生徒の発言を次のア～カから一つ選び、記号で答えよ。

ア 生徒A―塚本邦雄の歌について、【資料Ⅰ】では断定の強さがあつて透徹した美意識に貫かれた歌、【資料Ⅱ】ではあいまいさを嫌う若い頃のいらだちのような感情が鮮明に感じられる優れた歌、と評価されているね。

イ 生徒B―作者の塚本邦雄は、実際には馬にも触れたことがないようだけれど、よくこんな歌が詠めたよね。驚いたよ。

ウ 生徒C―たしかに馬が詠まれているけれど、この歌の馬は本物と言うよりも「馬一般」というのがふさわしいような概念としての「馬」だよ。【資料Ⅰ】には「人恋はば人」のあとに断定の強さを感じると書いてあつたけれど、その点を考えると、この歌の主眼はあくまで「人恋はば人あやむるところ」の方にあるんだと思う。

エ 生徒D―人を恋うならその人を殺めたいと思うほど徹底的に。人を殺めたことは無いけれど、共感してしまう生々しい表現だと思った。

オ 生徒E―【資料Ⅱ】で「実感の再現」と書いてあつたけれど、その指摘通り、体験したことがないことでも読者を共感させるような、実感を再現させる歌と言えるね。詩の力つてすごいな。

カ 生徒F―馬の魂が「冴える」のだから、もちろん手触りとしての「冴え」ではないんだろう。「冴える」という表現からは馬の魂が透徹としている印象を受けた。あと、この歌には相手を殺めるところまで行きつく「熱情」もあつて、その点に注目すると「冴え」と「熱」という相反する性質が内在する歌だね。

【三】次の文章を読み、後の各問いに答えよ。本文（原文）の左に示しているものは対応する現代語訳である。答えは解答题用紙に楷書で丁寧に記入すること。なお、指示された表記方法以外で解答した場合は採点されないため注意せよ。

今は昔、人のもとに宮仕えしてある生侍<sup>①</sup>ありけり。することのなきままに、清水へ人まねして、千日詣を二度し

奉公

若侍

なにもすることがないままに、

たりけり。その後いくばくもなくして、主のもとにありける同じやうなる侍と双六を打ちけるが、多く負けて、

さほどたないうちに、主人

渡すべき物なかりけるに、いたく責めければ、思ひわびて、<sup>A</sup>「我<sup>B</sup>持ちたる物なし。只今<sup>②</sup>貯へたる物<sup>③</sup>とは、清水に二千度参り

たることのみなむ<sup>④</sup>ある。それを渡さむ」といひければ、傍ら<sup>かたは</sup>にて聞く人は、謀<sup>⑤</sup>るなりと、をこに思ひて笑ひけるを、この

ばからしいと思つて

勝ちたる侍、いとよき事なり。渡さば得んといひて、「いな、かくては請け取らじ。三日して、この由を申して、おのれ渡す

このままでは

三日精進して、事のいきさつを申し上げて、

由の文書<sup>⑥</sup>きて渡さばこそ請け取らぬ<sup>⑦</sup>」といひければ、「よき事なり」と契りて、その日より精進して、三日といひける日、

約束して、その日から心身を清めて

「さは、いざ清水へ」といひければ、この負侍、この痴者⑧しれものにあひたると、をかしく思ひて、悦びよろこてつれて参りにけり。

愚か者

いふままに文書きて、御前にて師の僧呼びて、事のよし申させて、「二千度参りつる事、それがしに双六に打ち入れつ」と

観世音菩薩の前で師の僧を呼んで、いきさつを申し上げさせ、

書きて取らせければ、請け取りつつ悦びて、<sup>⑨</sup>伏し拝みまかり出でにけり。

退出したのだった。

その後いく程なくして、この負侍思ひかけぬ事にて捕へられて人屋ひとやにゐにけり。取りたる侍は、思ひかけぬたよりある妻

まもなくして、

牢屋

裕福な家の妻を

まうけて、いとよく徳つきて、司つかさなどなりて、頼もしくてぞありける。

得て

任官にあずかり、

(語注)

\*1 清水 今の京都府東山区にある清水寺。 \*2 千日詣 同じ神社仏閣に千日参り続けると願いが叶う伝承がある。

\*3 双六 盤をはさんで対座し、盤上にそれぞれ白または黒の十二の駒を並べ、二つの賽さいを振り、出た目の数によって駒を動かし、

敵陣に攻め込んで勝負を競ったもの。作中では、物を賭かけている。

【『宇治拾遺物語』(卷六第四段) ※問題作成の都合上一部改変】

問一 二重傍線部 a と c を現代仮名遣いに改め、**全て平仮名で**答えよ。

- a やうなる      b 笑ひける      c ゐにけり

問二 波線部 A 「いたく」、B 「思ひわびて」の本文中における意味として最も適当なものを次のア～オから選び、それぞれ記号で答えよ。

- A 「いたく」      ア 珍しく      イ 優しく      ウ 静かに      エ 激しく      オ 淡々と

- B 「思ひわびて」      ア 腹が立って      イ 恥ずかしがって      ウ 困ってしまつて      エ 有難く思つて  
オ 冷静になつて

問三 傍線部①「生侍」、②「我」、⑥「文」のすぐ後に補うものとして最も適当な語を、次のア～オから一つずつ選び、それぞれ記号で答えよ。ただし同じ語を二回以上用いてはならない。

- ア は      イ が      ウ と      エ を      オ に

問四 傍線部③「貯へたる物」とは何か。最も適当なものを次のア～オから選び、記号で答えよ。

- ア 双六で勝つて得た賞品      イ 千日詣を二度した経験      ウ 任官という役職

- エ これまで貯めていたお金      オ 双六で勝つた嬉しい気持ち

問五 傍線部④「ある」、⑦「め」の両者にはこの部分を含む一文中に特別な語があることにより、文末が終止形ではなくなる。「結びの法則」が見られる。「ある」、「め」それぞれの活用形を次のア～オから選び、それぞれ記号で答えよ。

- ア 未然形      イ 連用形      ウ 終止形      エ 連体形      オ 已然形      カ 命令形

問六 傍線部⑤「謀るなり」とあるが、「傍らに聞く人」はなぜそう思ったのか。その理由として最も適当なものを次のア～オから選び、記号で答えよ。

ア 千日詣を二度もした経験をもろうことをうらやましく感じたため。

イ 千日詣の経験は目に見えないもので、だますのだろうと思つたため。

ウ 目には見えない経験をゆずるといふ聞いたことのない行為に感心したため。

エ 千日詣を二度したにもかかわらず、双六で相手に負けてしまったため。

オ 清水寺で千日詣を二度もしたかいがあり、双六で相手に勝つたため。

問七 傍線部⑧「痴者」とは誰のことを指しているか。最も適当なものを次のア～オから選び、記号で答えよ。

ア 負けた侍 イ 僧 ウ 勝つた侍 エ 観世音菩薩 オ 筆者

問八 傍線部⑨「伏し拝み」の主体(主語)は誰か。最も適当なものを次のア～オから選び、記号で答えよ。

ア 負けた侍 イ 僧 ウ 勝つた侍 エ 観世音菩薩 オ 筆者

問九 文章中にはもう一つ会話文として「」をつけたほうがよい箇所がある。その部分を本文中から十三字(句読点含む)で特定し、はじめの三字を答えよ。

問十 この物語の最後の  に当てはまる文として適当なものを次のア～オから一つ選び、記号で答えよ。

ア 「目に見えぬものなれど、まことの心を致して請け取りければ、仏、哀れと思しめしたりけるなめり。」

イ 「千日詣を二度すとも、双六などの賭け事せば、それもことごとくいたづらになれば賭け事はすべからず。」

ウ 「目に見えぬものを相手に渡さむとすと、仏からの天罰を受くるほどあれば、こころおくべし。」

エ 「千日詣のごときものは、幾度もすべきものならず。信心深く一度ばかり行ふことにかひあり。」

オ 「清水寺の観世音菩薩にも、千日詣を二度せる侍にも、目に見えぬものなれば、なすすべなし。」